

# 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2025 概要

## 基本方針

- ・ 持続可能な観光地づくりを推進
- ・ 保護と利用の好循環を実現
- ・ 自然との共生の文化を世界に発信



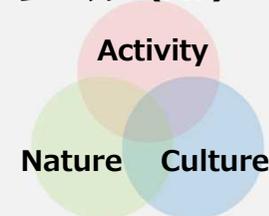
## ターゲット

- ・ 欧米豪を中心に市場規模が拡大しているアドベンチャートラベルを主要なターゲットとする
- ・ 2021年に開催予定のATWSを契機として、北海道を世界に発信
- ・ 国内旅行の誘客も推進



## アドベンチャートラベル (AT)

アクティビティ、自然、異文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行



## 目標

- ・ 訪日外国人利用者数 **31万人** (2020目標) の早期達成
- ・ 国内宿泊者数 **80万人** の維持
- ・ 連泊利用者、リピーターの増加
- ・ 繁閑差の解消

## 重点的な取組

### 道東AT推進

- ・ 知床、釧路湿原との連携等、道東におけるATを満喫するための入口としての機能を強化



### 利用拠点再生

- ・ 廃屋撤去、無電柱化の推進等により、引き算の景観改善を推進し、民間投資を促進
- ・ 公共施設の民間開放によるサービス向上



### トレイルネットワーク

- ・ トレイル整備及び移動しながら楽しめるアクティビティの充実により、長期滞在の旅行を推進



### 利用者目線での改善

- ・ 多言語化、動線の明確化、デザイン統一など、基本的な施設の利用者目線での改善に引き続き対応



### 新たな利活用

- ・ 保全を前提としつつ、新たな自然資源の利活用を積極的に推進

### ポストコロナ

- ・ ワークेशन等、ポストコロナ時代の新たな利用形態に対応

### 持続可能な観光

- ・ 脱炭素、プラスチックゴミ削減も含め、持続可能な観光地づくりを推進

## コンセプト（テーマ）

みちのくの脊梁～原生林が彩る静謐の湖水、息づく火山と奥山の湯治場

## 基本方針

- ・ 上質な滞在環境の創出
- ・ 持続可能な観光地づくりのための冬季利用の促進
- ・ 多彩な登山道を活用した歩いて楽しむ利用の推進

## 目標

震災復興や新型コロナウイルス感染拡大前への回復

- ・ 国立公園利用者数約600万人
- ・ 訪日外国人利用者数約3.4万人
- ・ 延べ宿泊者数、旅行消費額、滞在日数、リピート率の回復
- ・ 冬季観光コンテンツの充実
- ・ 満足度のさらなる向上



## 重点的な 取組

### 国内誘客強化

- ・ まずは県内や隣県を中心に
- ・ コロナ禍の状況を踏まえて段階的にプロモーションを展開

### ワーケーション等の 推進

- ・ 豊かな自然環境を活用した快適・安全なワーケーションの環境整備
- ・ 国民保養温泉地における温泉療養の活用



### キャパシティー コントロール推進

- ・ 紅葉期や自然現象鑑賞時の渋滞対策や混雑緩和
- ・ 事前予約制や環境協力金の徴収、マイカー規制の強化を検討



### 上質な滞在環境の創出

- ・ 廃屋対策の加速化による景観回復及び跡地の民間活用、宿泊体験を含めた上質な滞在プランの提案

### 冬季利用の促進

- ・ 氷瀑ツアーなどの冬季観光コンテンツの充実

### 環境配慮型受入れ環境

- ・ 各施設やサービス、体験プログラムにおける省エネ、脱炭素、脱プラへの配慮

## 基本方針（目指す姿と取組方針等）

NIKKO is NIPPON

自然・歴史・文化  
美しい「日本」を感じられる  
東京圏のプレミアムリゾート



- ・上質で奥深い魅力を満喫できる国立公園**  
 観光資源の磨き上げ、景観保全、ハード・ソフト両面での受入態勢整備等により、快適でストレス無くプレミアムな魅力を楽しめる国立公園を目指す。
- ・体験・滞在・周遊型の国立公園**  
 連携強化、体験メニュー創出、情報発信力・案内機能強化、交通機関の充実等により、長期滞在・広域周遊しながら本質的な部分まで体験できる国立公園を目指す。
- ・脱炭素・循環型を実現する国立公園**  
 持続可能な自然環境保全やCO<sub>2</sub>排出削減などにより、地球環境とも調和し、豊かな自然と共生した国立公園を目指す。

## 目標

- 一人当たりの観光消費額の増加を主な目標とする。



※参考値



- 利用者数・宿泊者数のコロナ前までの早期回復
- 質的目標として、来訪者の満足度向上を目指す。

## 主な取組

### 全域での重点取組事項

- ・ワーケーション等新たな需要への対応
- ・SDGsツアー、エコツーリズムを通じた持続可能な環境保全
- ・広域周遊のためのロングトレイルコース等設定
- ・ガイド認定制度の創出
- ・アクティビティの一元的なプラットフォーム整備
- ・日本一きれいなトイレを目指す

### ビジネス層向けの取組



### 富裕層、ハネムーン向けの取組



### 日光エリア

- ・湯元集団施設地区の再整備と民間開放
- ・環境保全基金制度創出
- ・観光型MaaSの導入
- ・EVバスの導入、EV利用環境の整備
- ・大使館別荘記念公園等でのユニークベンチャー
- ・アウトドア活動拠点の充実
- ・近郊周遊プログラムの構築
- ・夜間コンテンツ充実
- ・電線地中化、歩道拡幅

### 鬼怒川エリア

- ・自然、テーマパーク等を活用したヘルスツーリズム
- ・秘境感を大切にしたガイドツアー充実

### 塩原エリア

- ・eバイクでのセルフガイド付きレンタサイクル導入
- ・スポーツツーリズム推進

### 那須・甲子エリア

- ・野営場の再整備
- ・那須VC、那須平成の森FCの機能強化と民間開放
- ・ガイド育成システム構築
- ・アウトドアグッズレンタル事業の実施
- ・eバイクでのセルフガイド付きレンタサイクル導入
- ・体験メニューの充実

# 伊勢志摩国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム2025 概要



# 大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2025 概要

## ブランディング・テーマ

神話と山岳信仰が息づく  
暮らしとともにある 山・島・海



## 目標

- I. 自然と文化を活かした上質な観光を提供し、**大山隠岐国立公園ならではの魅力を極める。**  
(指標：満足度、消費額、滞在日数など)
- II. 新型コロナウイルス感染症による**影響前の水準まで国内外からの利用者数を回復させる。**  
(指標：日本人・外国人延べ宿泊者数など)

## ターゲット層

- 【国内】近畿地方、中国地方、首都圏の在住者  
【海外】台湾、香港、中国、欧米豪諸国の在住者

## 取組の方針

### 重点取組の例

### (1) 自然と調和した「持続可能な観光」の実現

- 大山で入山協力金の実証実験を実施
- 隠岐各島でE-bikeやキャンプ等がセットになったツアーを開発・販売
- 島根県内の地域で希少種等の保全活動の体験ツアー化を検討

大山山頂



### (2) 感動を与える体験の提供

- 夕方～早朝の時間帯を含む、自然・文化体験ツアーの充実化と磨き上げ
- ロングトレイル・サイクリングルートなど周遊ルートの充実化
- ガイドの育成

大平山



### (3) 多様な利用・需要に応じたサービスの提供

- ワークेशन向けのツアーの造成、受入環境整備
- 訪日外国人向けの中国5県の観光・交通パスの機能充実化



### (4) 安全安心の確保と利便性と景観の向上

- 大山登山口に自動翻訳機能付き総合案内所を整備
- 大山寺と日御碕でまちなみ景観改善
- 景勝地、登山道、ロングトレイルにある案内看板・誘導標識などを改修

### (5) 戦略的な誘客・プロモーションの実施

- 動画サイトを含むSNS、ウェブサイトでの魅力の発信、来訪動機の醸成
- OTAや商談会などを活用して、体験ツアーや周遊ルートをPR



# 阿蘇くじゅう国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2025 概要

## 基本方針

【世界水準のデスティネーションを目指す】

- ・ 公園利用者が安心安全に利用できる受入環境づくりの推進
- ・ サステナブルの浸透と広域周遊の展開
- ・ 地域が一体となった取組体制づくり



## ターゲット



- ・ 国内外の不安定な社会情勢を踏まえ、各事業へのニーズや提供できるサービス現況を捉えたマーケティングを進め、今後のWGで能動的に設定

## 目標

- ・ 訪日外国人利用者数 **140万人** (2020目標の据え置き)
- ・ 公園利用者数 **2,300万人** (約300万人増)
- ・ **定性的な指標** 満足度、観光消費額、サステナブルプログラム数等を設定。具体的な内容はWGで検討。



## 重点的な取組

### 新たな公園利用の提供

ワークスペース、舞台背景、ミュージアム、トレーニング施設等の新たな公園利用への利活用に向け、展開



## キラーコンテンツづくり



火口により近づける活火山見学、広大な草原の爽快さを味わえるサイクルツアー、高度な登山技術に触れる登山プログラム等の阿蘇くじゅうでしか体験できないコンテンツを造成

## 広域周遊の促進

周辺の国立・国定公園等の利用コンセプトが近い地域との往来を促進する等により広域周遊を促進



## SDGsの推進



既存ツアーのサステナブル化、パーク&ライドによる渋滞解消、e-バイク導入による脱炭素化等により、公園利用を通じたSDGsを推進

## 地域・事業者との連携強化

地域協議会の他、阿蘇くじゅうならではのサステナブルのあり方やマーケティング等の課題別に検討するWGを設置。機動的きめ細かい連携体制を構築



## コンセプト

多様な火山とその恵み、壮大な歴史と神話に彩られた霧島・錦江湾  
～まるごと楽しむ南九州の自然・文化・食～



## 目標（～2025年）

- ① **コロナ収束前**  
コロナ影響前の国内利用者数の復活
- ② **コロナ収束後、地域の実情を踏まえ**  
まずは新型コロナウイルスの影響前の訪日外国人利用者数の復活

## ターゲット

- ① 国内さらにはエリアを絞り九州内、隣県、県内。特に消費が多い利用者
- ② アジア地域が中心  
客単価の高い欧米豪の個人旅行者も

## 重点施策・集中的な取組

- ・消費額増加・満足度向上
- ・夜間・早朝の体験プログラムの開発・充実やロングトレイルの設定等
- ・プロモーションや交通手段の充実等。
- ・サステナビリティ
- ・保護と利用の好循環。
- ・民間事業者、銀行と連携

## 地域別の取組方針等

### 全体

- ・脱炭素に向けた取組を検討

## 霧島地域 多様な火山地形と火山の恵み

- ・廃屋撤去等、一体的な景観改善
- ・e-bikeの導入等、二次交通の改善
- ・ロングトレイルにより滞在長期化
- ・民間事業者や銀行と連携し、周遊性を高めるアクティビティの導入



## 桜島・錦江湾奥地域 陸から海から活火山桜島を間に体験

- ・民間事業者と連携し、  
1)アクセスを改善  
2)新たな環境保全型の自然体験型ツーリズム実施



## 指宿・佐多地域 多様な温泉と開聞岳の眺め

- ・駐車場等で利用者負担による滞在環境の上質化を検討
- ・フェリーに接続する二次交通の維持に向けて検討
- ・新たな夜間利用として佐多岬での星空観察会等を実施。



## 基本方針

- 「ケラマブルーの世界」を満喫できる持続可能な旅の提供
- リトリート空間の充実
- サンゴ礁の保全

### 「ケラマブルーの世界」

#### リトリートの実現



#### サンゴ礁の保全



持続可能な国立公園の実現に向け両輪として推進

- 島らしいゆっくりした時間を過ごすための情報発信、空間の提供、滞在メニュー充実
- 豊かなサンゴ礁を地域と来訪者がともに守る仕組みづくり

2021年5月にオープン予定館内に「カフェ ゆくるや」を併設



### ◆ 「青のゆくる館」

- ・国立公園の新たな情報発信、滞在利用、普及啓発、交流拠点
- ・民間導入による地域に根ざした管理運営、公園づくりを促進

## 目標

### ○ 宿泊率

日帰り利用から宿泊利用への転換を促し、低下傾向にある宿泊率を改善

### ○ 一人あたりの消費額の上昇

地域の努力により、平均消費額の特に向上が見込める「飲食費」と「買い物費」項目を改善

### ○ 満足度の向上

旅行全体の高い満足度を維持しつつ、特に評価の低い「お土産」項目を改善

## 重点的な取組

### 情報発信強化・デジタル化

- ・多言語によるきめ細かな情報提供
- ・キャッシュレス化の推進、ウェブ予約システム（宿泊、アクティビティ等）の対応強化

旅行前

旅行中

旅行後

デジタル化による体系的・一元的な情報提供

## 受入環境整備

- ・展望台、ビーチの老朽化施設の快適性、質的向上
- ・サインの多言語化、Wi-Fi整備、ユニバーサル化の促進



## 受入体制の充実

- ・青のゆくる館のサービス体制充実
- ・ガイド事業者のスキルアップ、育成
- ・質の高い宿泊サービスの提供



## コンテンツの磨き上げ、体験メニューの多様化

- ・滞在を促すアクティビティの充実、陸域の活用
- ・冬期利用促進のためのルート、プログラム開発

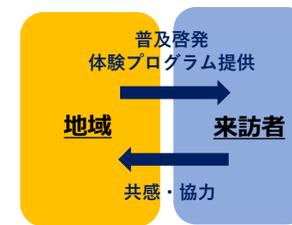


フィールドの新たな魅力の掘り起こし



## 持続可能な利用の実現

- ・サンゴ礁保全のための普及啓発促進
- ・環境協力税の活用、環境保全活動の継続



<モデル的な公園づくり>

# 支笏洞爺国立公園満喫プロジェクト推進プログラム2025 概要

## 支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進協議会

### 7つの基本方針

- ① 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知
- ② 自然体験プログラムの充実
- ③ 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理
- ④ サスティナブル・ツーリズム（持続可能な観光）の実現
- ⑤ 多様な滞在スタイルの推進
- ⑥ 周辺地域や他の国立公園との連携
- ⑦ 自然体験活動の推進体制の強化

- ・アドベンチャー・トラベル・ワールドサミット（ATWS）を契機として、北海道を世界に発信
- ・脱炭素化・ワーケーション・持続可能な観光の取組
- ・身近なレジャーやマイクロツーリズムの誘客も推進



### 目標（2019年実績）

- ・国内外宿泊者延べ数 **129.5万人**
- ・日帰り利用者数 **133.2万人**
- ・季節変化(繁閑差)の緩和
- ・訪日外国人利用者数 (2019年推計値)への回復目標 **17.1万人**
- ・訪日外国人宿泊客利用者数 (2019年推計値)への回復目標 **23.6万人**

### 重点的な取組

#### AT推進

- ・2021年9月に北海道で開催予定のATWSで空港や都市からの利便性が高い公園をアピール
- ・ガイド同伴のプログラム開発・充実

#### 滞在拠点整備

- ・キャンプ場の上質化、**廃屋の撤去**による景観改善を行い、閑散期の利用促進に向けた再整備・滞在施設の充実



#### ワーケーション

- ・オンライン業務やテレワークが浸透したことから、自然の中で**ワーケーション**等、新たな利用形態に対応



#### 脱炭素化・二次交通三次交通

- ・支笏湖温泉地区でのEV充電スポット整備・EVカーシェアリングや電動自転車の活用による**脱炭素化**推進



#### 持続可能な観光

- ・**オーバーユース**による利用者負担の仕組みも検討しつつ、プラスチックゴミ削減も含め持続可能な観光地づくりを推進



#### 新たな利活用

- ・**アイヌ文化**や縄文遺跡群など公園区域外の活動と連携
- ・フィールドの保全管理を前提として、**新たな景観資源の利活用**を積極的に推進



# 中部山岳国立公園南部地域ステップアッププログラム2025 概要

## 取組方針

- ・SDGsの推進
- ・COVID-19への対応
- ・新しい需要への対応
- ・インバウンドへの対応



持続可能な地域づくりへの貢献  
日本の国立公園の多様性の発信

## 重点取組の抜粋

### 新しい需要

- ・乗鞍高原のワーケーションビレッジ化



### 保護と利用

- ・ツアー参加費、宿泊費の一部を保護活動に回す等の取組を増加

### ポータルサイト

- ・作成済「南部地域」ポータルサイトの協働型運営体制を確立
- ・リアルタイムの情報発信



### ハードAT

- ・山小屋文化と3,000m級のハードアドベンチャーによる日本ならではの登山文化を魅せるATツアーを実施



### 世界水準の観光地の実現

- ・公園の核心部となる上高地と沢渡・平湯で連携強化によりサービス・ホスピタリティ等を上質化



### サステイナブルツーリズム

- ・脱炭素、脱プラなど、GSTCが求める要件も踏まえ、現状把握の上、目指す方向性を整理し、各種取組を実施



### 移動の充実

- ・移動自体を魅力的な体験コンテンツにすることによる満足度向上

### 世界観の創出

- ・国立公園に入った気分を盛り上げる演出（景観、制服、レクチャー等）を複数場面で実施

## 2025プログラムのビジョン

### 松本-高山Big Bridge構想の実現



地域の自然・文化・歴史を体感できるルートとしてブランディング。基盤整備等により長期滞在も実現。起終点から伸びる多様なルートを設定

## 数値目標

### <利用の質>

- ・消費額/人 **30%増**
- ・宿泊日数 **4.5泊 (1泊増)**
- ・国立公園認知度 **80%**

### <利用者の数>

- ・総利用者数 **10%増**
- ・訪日外国人利用者数 **46万人** (2019時点/独自推計の実績値) の早期回復
- ・閑散期の底上げによる利用平準化